

第33回日本口腔リハビリテーション学会学術大会開催報告

共催：にいがた摂食嚥下障害サポート研究会

後援：一般社団法人新潟県歯科医師会，一般社団法人新潟県歯科衛生士会
一般社団法人新潟県言語聴覚士会，公益社団法人新潟県看護協会
公益社団法人新潟県栄養士会

日時	2019年11月9日（土），10日（日）
場所	新潟ユニゾンプラザ
参加者数	311名
協賛企業	28社

概要

第33回日本口腔リハビリテーション学会学術大会は、「健康長寿に貢献する歯科医療と食支援」をメインテーマに、にいがた摂食嚥下障害サポート研究会の共催で開催された。研究会会員および会員企業からも多くの参加をいただいた。

学会初日の会長指定講演では厚生労働省老健局老人保健課の眞鍋馨先生から、日本の人口動態が急速に少子高齢化に進む中、医療や歯科医療がどのように進むべきかについての指針を得るべく、「介護保険制度の施行状況と口腔リハビリテーションへの期待」と題したご講演をいただいた。特別講演では、新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野の小野高裕教授から「咀嚼能率と咀嚼行動から“よく噛むこと”の意味を考える」と題して、咀嚼の重要性を考える最近の知見をご紹介いただいた。学会2日目の会長講演では、新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション科の井上誠教授が「これからの口腔リハビリテーション」と題し、今後ますます増加する高齢者の摂食嚥下障害に対して歯科がどのように関わるかの指針を、既存の知識にとらわれない新たな食支援のアプローチも含めて解説くださった。また、教育講演では東京歯科大学解剖学講座の阿部伸一先生から「口腔リハビリテーションに必要な機能解剖の知識—高齢者にみられる形態と機能の変化—」という演題名で、動画などを駆使した分かりやすい生理・解剖の解説をいただいた。加えて2日目には、「食支援」のテーマにふさわしい2つのシンポジウムを開催した。シンポジウム1は日本摂食嚥下リハビリテーション学会との共催シンポジウムで、「食べる機能の維持のための地域医療連携」と題し、地域で活躍されている医師、歯科医師、言語聴覚士、作業療法士の先生方をお招きして、多職種連携の実績をご紹介いただいた。シンポジウム2は「医科歯科連携における歯科とSTとの連携」と題して、口腔リハビリテーションを担当する若手歯科医、言語聴覚士それぞれ2名から自らのアイディアと専門性を生かした研究をご紹介いただいた。同日のランチョンセミナーでは、新潟大学医歯学総合病院口腔リハビリテーション科の伊藤加代子先生から「適切な口腔保湿剤の選び方」という演題名で講演いただいた。保湿剤の種類や適用などを含めた講演内容は、定員100名を超える大好評で、会場は熱気にあふれていた。また今大会は一般口演23題、ポスター8題の発表も行った。ポスター会場は、企業展示と同じ会場であり、多くの人が活発な意見交換を行った。企業展示会場では、にいがた摂食嚥下障害サポート研究会を紹介するポスター展示およびパンフレット等の配布も行った。

大会会期中の天気予報では雨天が心配されていたが、参加者の熱気のおかげか雨に降られることはほとんどなく、懇親会も新潟県のご当地クイズなどで大いに賑わった。



新潟ユニゾンプラザ



開会挨拶 井上 誠大会長



会長指定講演 真鍋 馨先生



会長講演 井上 誠先生



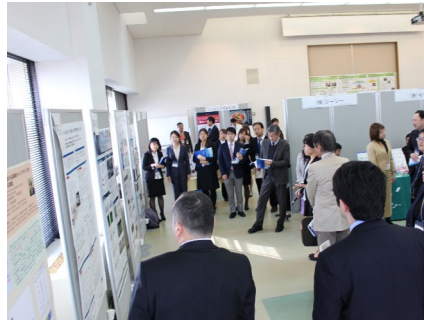
特別講演 小野高裕先生



教育講演 阿部伸一先生



一般口演



ポスター発表



ラウンドテーブル 伊藤加代子先生



シンポジウム 1



シンポジウム 1



企業展示



シンポジウム 2



シンポジウム 2



スタッフ集合写真